

営農用水の施工箇所で現地研修を行いました！

当課では、農業農村整備の円滑な推進のため、情報共有や学習を目的とした研修会を実施しています。

その一環として、今年の11月に稚内市増幌(ますほろ)にある「道営畑地帯総合整備事業(担い手支援型)(単独営農用水) 増幌地区」の施工箇所で現地研修を行いました。

本地区の営農用水は、施設の老朽化等により飲雑用水の供給が不安定な状態が続いていました。

そこで良質で安定した営農用水を確保するため、配水施設等の改修を行います。



①水源となる、稚内市所管の「北辰(ほくしん)ダム」です。発電等の機能はなく、水道専用のダムです。稚内市で使う約1年分に相当する水量が蓄えられています。



②営農用水を運ぶ青い「ポリエチレン管」です。接続部分に電気で熱を加えることにより、管同士を密着させます。並大抵の衝撃では、はずれることはないそうです。



③当該地区では、ポリエチレン管を河川下を横断させるため、地面を開削することなく配管を埋設する「テラ・ジェット工法」を採用しています。機械の前方には「発進坑(はっしんこう)」という作業用の坑が掘られています。



④ ③の「発進坑」の前方には川があります。川の向こう岸に掘られた作業用の坑「到達坑(とうたつこう)」の底の様子。管を通す孔を作るため、③の機械によって拡孔器(パッカー)が土中に引き込まれていく瞬間です。



⑤ ④の拡孔器が引き込まれた直後の写真。中央部分に孔が開いています。ここから、②で見たポリエチレン管を入れ、川の下を横断させます。



⑥このテラ・ジェット工法で使用されるドリルヘッドです。小さな穴が見えますが、ここから掘削液体をジェット噴射しながら、ドリルが回転します。ドリルヘッドの位置を地上から検知しながら誘導するので、正確な掘進が可能です。